

中島地区タウンミーティング(公開用)

平成25年7月13日(土曜)

【市長】 皆さんこんにちは。皆さん今日はお休みのところこのように日中でございますのにお集まりいただき本当にありがとうございます。また、このタウンミーティングは、松山市全体としても2巡目ということになります。中島も、今回2回目ということになります。来月のトライアスロンに向けて準備が何かと忙しくなる中、タウンミーティングの開催にご協力をいただきました総代会の会長さんをはじめ、総代の皆さんには心から感謝申し上げます。

さて、このタウンミーティングは、私が就任してから始めさせていただきました。市役所で待っているよりは皆さんの地区に出かけさせていただいて、お声を聞かせていただくという思いから始めたものです。松山市は旧の松山市、旧の北条市、旧の中島町、全部あわせて41地区になります。その地区ごとに開催をしていますけれども、当初は、市長の任期は1期4年48カ月ですから、1カ月に1回のペースでタウンミーティングを開催しようと思っておりましたけれども、皆さんの声をいただいて、できることからすぐ市政に反映させますのでおかげさまで好評ですので、思い切って前倒しをさせていただいて、1巡目は2年2カ月で全41地区をまわることができました。このタウンミーティングはガス抜きなどのためにやっているのではございません。気持ちとしては、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないということで、1回目のタウンミーティングを開催したときも、必ず1カ月を目途に、なぜ1カ月かかるかという、例えば国と絡む案件だったら国に問い合わせる、県と絡むものでしたら県に問い合わせる、答えが返ってくる、で、松山市の方針を決めて地区にお答えをします、1カ月を目途にということになりますけれども、その1カ月後に必ずお返事もさせていただいております。そして1巡で終わるのではなく、私が市長をやらせていただいている間は、このように現地現場に出向かせていただいて、皆さんの声を、市役所で待っているのではなくて聞かせていただいて、そして市政に反映させていこうという気持ちの表れです。今日はご覧になっていただいたらおわかりのように、中学生、高校生も来てくれていますので、前回同様、やはり90分という時間がありますので、肩肘張っているとさすがに疲れてしまいますので、ぎくばらんな会にできたらなと思います。とにかく皆さんのお声をいただいて、そしてすぐさま市政に反映していきたいと思っておりますので、今日もどうぞよろしく願いいたします。

【男性】 総代会です。地区の皆さんのボランティアによってイノシシ、鳥獣、害獣の駆除に活動していただいておりますが、老いも若きも、もうほとんど地区の大半の人が携わっております。これがいつまで続くのか、我々も心配なところがあるんですが、市でも鳥獣対策担当課長が設置されましたけど、これどこまで我々協力といいますか、どういうふうになんていうのか、もうちょっと突っ込んでお聞きしたいと思うんですが。

【市長】 それでは全体的なことについては私から説明させていただきます。あと補足があればお願いします。まず有害鳥獣対策について、1頭とっていただいたらイノシシについては2万円、サルについては3万円という奨励金を出しております。確か22年のイノシシの捕獲数が500頭台だったと思います。最新の1年の数字でいうと、800ぐらいになります。そのように1年でとってる頭数自体は増えてきています。当然それかける2万円ですから、その分の予算ももちろん増やしています。元々は個人でイノシシが入らないための柵を設置した場合には、補助が出る制度があるんですけども、共同で設置していただくと、より柵が設置しやすくなりますので、共同で設置した場合にも補助が出る制度にしています。また狩猟免許を持った方が大分少なくなっていますので、取る人が少ないよりは多いほうがいいたろうということで、その狩猟免許を取られるときの補助を出すようにしています。そのような形で、さまざまやっております、今まで松山市の農林水産課でイノシシ対策やっていたけれども、もっと責任体制を明確にしてやろうということで、鳥獣対策担当課長を今年4月からつくらせていただきました。今年の取り組みとしては、やはり我々としてもできるだけイノシシの被害を少なくしたいと思います。皆さんがせっかく例えば一生懸命育てたかんきつが、おいしくなったときにイノシシにやられてしまう。それだと本当にやる気なくしますので、そういうイノシシの被害をできるだけ小さくしていきたいと思うんですけども、もうイノブタ化しております、年に何回か何頭も産むということで、抜本的な特効薬というのは今のところ、どこの自治体もできてないというのが現実です。イノシシの肉を使った食肉工場も考えてみたんですけども、これもなかなかすぐにさばいて血を流すとかしないとなんか食用にはなかなかかなりにくい部分もございます。愛媛大学の農学部があるので、本当に的確な方法がうてるように今年度は愛大の農学部さんと連携した取り組みをさせていただく、これからは我々としてはできるかぎりこの有害鳥獣対策は力を入れていって、皆様方がせっかく一生懸命つくったものがイノシシに最後やられる被害ができるだけないようにしていきたいと思っております。また皆様方はまさに現場現地でイノシシ対策をされている方々

ですので、せっかく鳥獣対策担当課長をつくりましたので、何か松山市こうしたほうがええんやないかな、ここどうなっとんかいなっていうのがありましたら遠慮なく支所でも構いませんし、市役所の鳥獣対策担当課長に電話していただいても結構ですし、皆さんと連携をとりながらやっていきたいと思っておりますので、またご協力よろしく願いいたします。

【男性】 2年前より若者のグループがこの中島へ首都圏より子どもさんを含めて10名程度移住してきております。今後も数名移住予定ですが、それと、特別養護老人ホームを今後30床ほど増床の計画があるんですけども、それに伴って介護職員の若者が移住してくることも十分考えられます。そこで前回のタウンミーティングでも出ましたけれども、教員住宅をなんとか有効活用できないかと、今の報告を見ますと検討中となっておりますけれども、平成20年に文科省から公立学校施設に関わる財産処分手続きの大幅な簡素化、弾力化という通達が出ていますので、これによりますと、財産処分が非常に簡単になったと、それと報告だけでいい場合もあるということなんで、ぜひこれを市営住宅として転用していただいて、そういう定住の方に提供していただけたら非常に有効な活用ができるんじゃないかと。今のままでしたらもう塩漬け状態で傷むのを待ってるような状態なんで、ぜひ検討していただきたいと思っております。

【地域振興担当課長】 坂の上の雲まちづくりチーム地域振興担当課長の中富と申します。よろしく願いいたします。教員住宅の利活用についてですけれども、休校から学校を再開する場合とか、教職員の人事異動の状況で使用する可能性がありますので、一定の戸数は残しておく必要があります。しかし島の過疎化に歯止めをかけることは必要と認識しております。移住や定住の促進は今後つなげていきたいと考えているところであります。先ほど市長からも冒頭の振り返りのところで説明をさせていただいたんですけれども、今年度には体験滞在型交流施設の整備とか、教員住宅あるいは島の空き家を活用してお試し住宅などの制度の導入について詳しく検討しているところでございます。昨年度に私どもで島の空き家調査をさせていただきましたけれども、中島本島で約30戸の空き家、売ってもいいよ、貸してもいいよというような回答が返ってきておまして、興居島を含めて63戸そういった形で出てきています。そういった空き家であったり教員住宅の利活用を今後も図っていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【市長】 私から。ちょっと個人的な思いになるんですが、担当の中富地域振興担当課長なんですが、御存じの方もいらっしゃると思いますが、中島の出身です。地域をわかっている人間が、できる場合はできるだけ地元

のことがわかった人がそういう仕事をすべきだという私の思いがあったものですから、今年の4月から地域振興担当課長になってもらいました。大変なところを担っておりまして、中島出身ですけれども、中島だけにとどまらず、北条のことも、三津のこともやらないけません、もういろんなところ抱えて走り回っている状況ですけれども、私の思いはやはり地域の実情に即していきたいという思いでやっております。そして私就任したときに、まず移住定住を促進していきたいと思ったんですが、やはり難しいところがあったのは、島の方で空き家になってるけど息子が帰ってくるかもしれんけんこれはまだ渡せんよ、お仏壇おいとるけんやっぱり人には貸せんよとかやはり1軒1軒おたずねするとさまざま事情がありましたので、空いとるからじゃあすぐ貸せるかというところ難しい部分もあったというところが現状でもあります。でもさりとてこの移住定住は進めていきたいと思いますし、実は北海道に出張に行きましたときに、北海道大学には観光学高等研究センターというのがありまして、観光の専門家の方がいらっしゃる、そして移住とか定住のことについても教えてください日本を代表するような教授がいらっしゃいます。で、お話を聞くと、やはりお試し移住でいうと興居島か、また本格的な移住でいうと農業もしながら島暮らししながらというところ中島なんかすごく可能性の高いところだというお話を伺って、意を強くしたところですので、また皆さん方と一緒に移住定住を促進していきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

【男性】 今年度中島中学校のPTAをしております。よろしくお願ひします。青少年の育成とそれから地域の発展についての観点で、質問と要望と提案をさせていただければと思います。まず質問ですが、中島中学校の青潮寮やっと工事が始まりましたが、当初の予定では年末完成で冬休みを利用して引っ越し、そして最後の3学期を3年生には新しい寮で過ごしてもらおうと伺っていたんですが、若干工事が遅れている気がするんですが、間違いなく工期内で終わって、最後3年生を新しい寄宿舎からお送りすることができるのかどうかということがまず質問です。それから要望ですが、先ほどもありました定住者、Iターン、Jターンですけれども、確かにおっしゃってた若者が東京のほうからやってきて、頑張っていたらいい。断片的なお話ししか聞いてないんですけども、やはりたまたま教員で住む家があったからというのが一番大きいようです。私もいろいろ聞いてますと、やはり移住するにあたって住まい、これをもしできましたら松山市のほうである程度集約して情報管理を行っていただき、またできたら家賃に関しても、個々の交渉というのは非常に難しいものがあると思いますので、松山市のほうで実勢価格に応じたある程度の家賃のレベルといいます

か、一般的なものを出していただいて、それをインターネット等を通じて全国に発信をしていただければ、もし市が無理なら市の外郭団体等で、そうすると移住者にとっては心強いんじゃないかなど。それと彼らが東京の仲間と連絡をとって、東京でみかんを売っているというのを聞きまして、かつて私メーカーにいたんですけれども、その一番の強みは、消費者の声が直接聞けるメーカーによるメンテナンスなんですね。このあたりが彼らが非常にモデルケースとしてやってくれてるんじゃないかなど。そういうのを市でも一般の農家も含めて、いろいろプランを発信していただければと思います。最後に提案ですが、婚活支援、いろいろやっていただいていると思いますが、一つの提案として、市長もマスコミ関係の出身です。テレビでとんねるずも、ナインティナインもやっていますかね。そういったバラエティでも構わないと思うんですけれども、知名度のアップにもなりますし、そしてなにより女性が集まります。ぜひそういったことを提案としてご提言させていただければと思っております。以上です。

【市長】 はい、わかりました。青潮寮の件、家賃のこと、そして婚活支援のこと3つほどいただきました。ちょっと忘れないうちに。イノシシのことで言い忘れたんですが、できることはなんでもしたいと思っています。例えば支社長さんが就任されて挨拶に来るとか、例えば行政の方も税務署長さんとか日銀の新しい支店長さんが来るとか、ある日、自衛隊の松山駐屯司令さんが来られたことがありまして、例えば自衛隊さんの力を借りて、中島にはもともとイノシシはいなかったと聞いている。広島から移ってきたので、生物の多様性とか、種の保存とかいう話にはならないと思うんで、自衛隊さんで、演習の一環として駆除していただくことはできないんですかと言いましたら、これはできないと。これは一件だけ例があると。北海道でシカの駆除をするときに、ヘリを飛ばして雪の上ですから、今ここにシカがいるよっていうのを手助けしたことはあるけれども、やっぱり今のルールだと動物に向かって銃を発射するのはできないということでしたので、自衛隊さんにやってもらったという方もいらっしゃると思いますが、私が交渉したところはまあそういうことだった。でもちゃんとした方だったので、こういうご意見は自衛隊の本部のほうに必ず伝えておきますとは言っていただけましたので、ちょっと忘れないうちにご報告をさせていただきます。ではまず青潮寮のことからいきますか。

【生涯学習政策課長】 はい、教育委員会生涯学習政策課の津田と申します。よろしくお願いたします。先ほどお話ありました青潮寮の工事の問題ですけれども、計画どおり11月中には完成を目指しております。今ちようど給排水の工事にとりかかろうとしているところで、7月16日ぐら

いからある程度本格的な動きがあろうかと思しますので、大きな災害等がなければ、11月中には完成しまして、引っ越しを11月、12月にかけて、3学期は新しい青潮寮で過ごしていただけるものと考えております。

【地域振興担当課長】 中富です。空き家情報とか、教員住宅を活用した定住促進、短期お試し住宅の情報管理等につきましても制度の構築の中でどのようにして情報発信していくのかも検討していきたいと考えております。次に婚活支援についてですが、先ほど市長からも説明させていただきましたけれども、「愛ランド里島構想」の中で、定住の促進ということで、「島びとが輝くまちづくり重点プロジェクト」、重点的に取り組むプロジェクトとして定住の促進をうたっております、今年度取り組むこととしております。それと、昨年度松山市では第6次総合計画を策定させていただいたんですけれども、将来都市像として、「人が集い笑顔広がる幸せ実感都市まつやま」を掲げて、この将来都市像を実現するための笑顔プログラムの中に、出会いの場の創出、サポートを掲げているところです。今年、定住促進に向けた地域振興の観点から、婚活事業に取り組んでおりまして、具体的には愛媛結婚支援センターや島しょ部で実際に婚活を実施されているNPOさんなどと連携しながら、今年8月から9月ごろに首都圏で島しょ部の方々によるプレゼンテーションを実施するほか、秋から冬にかけて、首都圏から島のほうにお呼びして、地元の方との婚活事業を予定しているところです。それとマスコミを活用したやり方というご質問があったんですけれども、わりあい島の方というのはシャイでございまして、テレビが入ったときに皆さん応募されるんですかね。あの私どもとしては大々的にやっていきたいと思っはいるんですけれども、いざテレビが入るとなると気恥ずかしいであったり、振られたらどうしようとかそんなんがあるんで、そういったところも住民の方やお世話していただく方と十分協議させていただきながら、今後検討していきたいと思っております。以上です。

【市長】 婚活、マスコミを使ってというのもすごい興味深い切り口だと思います。もともと放送局で仕事をしていた私ですが、コツは知ってるつもりなので、地元から発信するのも大事ですけど、松山の情報を東京に受け手がいて、東京から全国に発信してもらったらより効果が大きいので、今そういうシティプロモーションをやっておりまして、最初、元手があるんですけれども、元手の90倍にあたる22億円ぐらいの広告効果が今出ます。今松山のことが全国のテレビとか新聞、ラジオ、インターネット、こういったもので情報発信される機会がかなり増えているんですけれども、今松山市でそういうシティプロモーションをやって、22億円の広告

効果が出ているというところです。ちょっとメディアの人と話をしてみたいと思います。やっぱりマスコミがくるとプラスなのか、それとも恥ずかしいとなるのかちょっと聞いてみたいと思います。ありがとうございました。

【男性】 中島分校の存続問題について語りたと思うんですが、新聞にも載せられたように、中島分校は再編計画を1回迎えました。今回は新生が20人を超えてなんとか再編計画は乗り越えたんですが、これからも人数不足という問題はまだまだ続くと思います。そうした状況の中、中島分校の生徒会としても、パンフレットなどを使って松山市の中学校などに呼びかけをしています。また中島中学校が現在新生の入学が少ないので、中島中学校との連携も深めて地元の生徒を増やしていきたいと思います。このようなことをしていくうえで、中島分校に来る松山の生徒に負担ができるだけないようなことをしていきたいと思っているので、一度出てきたようなフェリー代の補助金や、学費、学校施設などを今生徒や先生方でやりくりしているんですが、学校設備などにかかるお金が少ないので援助していただきたいと思っているのですが、よろしく願いいたします。

【市長】 はいわかりました。これは大きな方向性の話なので、私のほうから話をさせていただきます。私20年間、前の仕事で愛媛だけじゃなくて四国、中国、九州さまざまいいまちづくりを見させていただいて、やっぱり学校がなくなると、とたんに寂しくなるものです、その地域は。できるだけ学校を残していきたいと思っています。皆さん地元なんでよくよく御存じの方多いと思いますが、確認のために。県の教育委員会がそういう基準をつくりました。松山北高校中島分校の場合は、入学生が19人以下の状況が2年続いた場合は、3年目からの募集が停止になります。で、平成25年、今年の春の入学者数は25名でしたので、今年度は基準をクリアということになります。通学の補助でいうと、制度設けておきまして、島しょ部唯一の高等学校で、中島地域にとっても欠くことができない存在だと思っています。そして支援するために中島分校への通学定期券、運賃補助を設けておきまして、例えば中島高浜間はフェリー1カ月定期、20,880円に対して16,500円の補助を出しております。つまり自己負担は4,380円という補助をしております。4月現在、40名の方に制度をご利用いただいている形になります。またありがたいことに、危機感を感じた分校の後援会長さんや同窓会長さんらが中心になって去年の12月に中島総代会長さんなど33名で組織する松山北高中島分校振興対策協議会ができてます。そして松山市からも中島の支所長や地域振興担当課長、学校教育課長が会員になって学校の存続に向けた協議を行ってい

るところです。私からの願いは、私個人的に思っていることですが、せっかく青潮寮があるんだから、また野忽那シーサイド留学の経験もあるので、こういったものをまとめた活かしたやり方で中島に若い人がおるような形をつくっていきたいと思っています。中島分校も残していきたいと思いますし、生徒さんへの願いは、なくなるんだという悲観的には動いてほしくない。自分たちが絶対に残すんだという気持ちで動いてほしい。なくなるんがあたりまえじゃなくて、自分らの学校を残すんだというふうに動いてもらいたいと思います。そのためにはみんなも意識してと思うけど、やっぱり中島分校はええなって島の人たちにも島の外の人たちにも思ってもらうことが大事だと思います。県外の事例でいうと、そういう自然豊かなところで学ばせたいという保護者の方もいらっしゃるので、めきめきと進学実績を上げていったというところもあるので、もちろん進学実績だけがすべてではないんですけども、よりよい学校のやり方というのはあると思うので、人が少ないからそれで終わりじゃなくて、よりよい学校をつくっていくように生徒さんも島の周囲の方々も心がけていただくといい動きになると思います。つけ足しがあれば。

【地域振興担当課長】 中富です。分校の生徒会でも中島中学校に働きかけていただいているということを知っていて、すごく心強く思っているところです。今年取り組みですけども、松山北高中島分校振興対策協議会の中で、島内外の中学生への情報発信とか中学校との情報交換も予定しておりますし、地域や同窓生への情報発信と危機感の共有あるいは地域への存在意義の発信といったものに取り組むこととしておりますけれども、今後は中島ならではの、島ならではの特徴をいかした学校づくりが検討されていくのではないかと考えておりますので、ぜひ生徒の皆さんも力を貸していただけたらと思います。ありがとうございます。

【中学生】 僕から話させていただくのは、子どもたちの遊び場なんですけれども、旧東小学校のグラウンドですが、僕が小学校6年生ごろだったと思うんですが、突然グラウンドゴルフというのが始まりまして、子どもたちが遊べる時間がとても少なくなってしまいました。今の子どもたちにはやっぱり外で遊ぶ場所が必要だと思うので、旧中島東小学校のグラウンドを使える時間をもう少し増やしてほしいというのが要望です。よろしくお願ひします。

【生涯学習政策課長】 はい、今、旧中島東小学校の話が出たんですけども、あそこはこれから工事に入る部分がありますので、そのあたりを見極めながら、学習施設課、また中島の皆さんにどのような時間が可能なのかお知らせしたいと思いますので、今この場では時間の説明まではできま

せんのでお許してください。

【市長】 やっぱりグラウンドで遊ぶことが多いですか。

【中学生】 はい。

【市長】 もう僕は君より大分年は上で今年46になるんですけれども、僕はどっちかというところよりグラウンドの平らなところよりお城の北で育ったので、お城山でカブトムシ取りに行ったりとかクワガタ取りに行ったりとかへびに追わいかけられたりとか梅津寺の海で泳いだりとかそんなんで遊びよったんですけど、どっちかというところグラウンドの平らなほうが遊びやすい？ どんなことして遊んでます？

【中学生】 野球やサッカーを。

【市長】 そうか、野球かサッカーは山ではできんな。確かに。何人ぐらいで一緒に遊んでます？

【中学生】 多いときは4、5人です。

【市長】 東小のまわりに、野球ができるとこってほかにあるかな。東小以外で。

【中学生】 あんまりないです。小さい公園ならあるんですけど、ゴールコートや広い面積がないので、球技などのスポーツは向いていないです。

【市長】 実は子どもは子ども同士で遊ぶときに、コミュニケーション能力を鍛えているそうです。子どもが、僕はこの遊びがしたいと自己主張する。遊びと遊びがぶつかって工夫したり妥協したり調和することで、子どもはコミュニケーション能力を鍛えているそうですけれども、ああやって子ども同士が遊ぶ場はすごく大事なことです。中学生の立場からの大事な意見だと思いますので、今回持ち帰らせてもらって、また1カ月を目途に必ず回答させていただきます。

【男性】 先ほどからちょっとお話し何度もしていただいている地域活性NPOです。よろしく願いいたします。

【市長】 テレビで見させていただきました。大変関心を持っております。

【男性】 先ほどから話題にのぼってますところを何点か絡めてお話しさせていただきますたいんですが、空き家の管理に関しては、松山市さんから集まったデータを見せていただいて、こちら現地で管理していければと思ってるので、担当者を設けて一人一人大家さんと直接コミュニケーションを取りながら、貸していただくなり、購入させていただくなどの価格の交渉をしていこうと思ってます。ただそのすぐに使えない物件、トイレがないとか、どっか直してから、風呂を直してからじゃないと使えないとなると、それだけで費用が50万、100万要ってしまうので、そこに対する補助を行政からしていただけるとすごくありがたいと思っております。移住者に

関しては、僕らもメディア、といってもマスメディアだけじゃなくて、インターネットメディア、SNSなどを駆使して全国に呼びかけて行って、そういうものから新しい方が入ってくる可能性がかなり高いので、なるべく移住の敷居を下げていけるように友達のようなノリで軽く、行政を絡まないところの良さってそういうところだと思うんですよ。なんか助成制度を受けるとなると審査なんかも出てくると思うんですが、まさにお試し移住というようなことをすでにやってまして、とりあえずうちに空きの部屋が2部屋ほどあるので、そこに2、3日住んでみてもらって、その間にいろいろ話し合う、堅く言えば面接のようなこともさせていただいてから、この人とこの人ならマッチングできるんじゃないかという人をどんどん島の中で紹介して行って、人と人とのつながりをつくって移住の方向に向けていっています。ということで空き家管理など移住促進のことは民間のほうからも少しずつ具体的な動きをしていかないと形ができないと思うので、そういうふうにはやらせてもらってます。イノシシ対策についてですけど、来年の「しまのわ」に向けて、イノシシの狩猟体験ツアーを考えておりまして、青少年の育成とも絡めて食育の部分、実際に本当は見たくないようなところも見てもらって、もし可能であればさばくようなことも子どもたちにもやらせてもらって、それを食べる、イノシシをいただくというのはこういうことだっというのを体験していただければと思っています。あと北高分校の存続について僕らも自分たちなりにできることはないかというのを前から考えてまして、元々がバンドをやっていた連中の集まりで集団移住ということなんで、もし可能であれば軽音楽部をつくって全国に20代、30代で楽器バンバンやってるやつらが指導もしていける体制があるっていうのもPRしていければ少なくとも2、3人のプラスにはなるんじゃないか、少しでも力になればと思って提案させてもらったりもしています。最後に一つこれだけは言っておきたいという部分ですが、先ほど島の学生さんたちが悲観的になるんじゃないかって楽しいすばらしい島なんだっということを発信していけばいいと市長さんからおっしゃっていただいたんですが、それはまさに島全体に言えることで、僕らが移住してきてから、島の方々になんでこんな島来たん？東京のほうがええやろ、つまらんやろってよく言われたんですけど、そういう発言をまずやめてほしいです。東京もええと思うんやけど、こういう生活ってやっぱりいいよねっていう島の人たちが自分たちが今楽しい生活をしてるっていうことを日常的に口にするような環境をまずつくる、そういう意識をつくる、それだけの十分なポテンシャルを持ってる島の生活だと思うので、そのすばらしさを感じていくということをしていただければ、来た人たちも、ああ

んなが幸せに暮らしている島なんだなって思えば、自分も来たいなって思えるんじゃないかと考えますので、よろしく願いいたします。

【市長】 空き家のこと、ハードを直すときにちょっと補助をとというお話しもありましたが、担当どれからでも。

【地域振興担当課長】 空き家の件ですけれども、確かにすぐに入居できないであったり雨もりしているというような家もあるかと思うんです。結局移住定住に取り組む中でそういった制度の構築も含めて検討している最中です。むしろ行政より先に独自に取り組んでいることに対して非常にありがたく思っております、10名の方が移住してこられたんですかね。行政支援なしに民間独自でそういったことに取り組んでいただいていることに対しては本当にありがたいと思っております。それから、ITとかインターネット、フェイスブックそういったものを活用して島の情報発信につなげていくシステムも構築したいと思っております。それから「しまのわ2014」というのが平成26年度に開催されます。広島県と愛媛県あるいは関係する市、町で連携して広域的な取り組みによって島しょ部あるいは臨海部の活性化を図っていくとしようとするものですが、その中でイノシシの解体体験という提案をいただきました。ご提案自体はありがたいと感じておりますが、実際にそれが体験メニューになるのかどうか、私どもだけでなく県の方とも協議させていただきながら審査会をとおる形になるかと思っておりますので、そういったところでも協議したいと思っておりますので、ぜひもっと詳しい内容をお聞かせいただけたらと思います。分校の存続に向けたことについてですけれども、軽音楽部ご提案いただいたんですけれども、実際にそれを分校の方に受けていただけるのか分校の活性化振興協議会でまた検討していきたいと考えております。

【市長】 いろいろご提案ありがとうございました。ほんとに前向きに考えていただいてありがたく思います。皆さんに胸をはっていただきたいんですが、「しまはく」ありました。22年度「しまはく」のコアイベントの参加者が4,136人、23年度がこういうイベントの参加者が前の年から200人増えた、4,300人になりました。24年度何人になったかという、5,723人です。22年の「しまはく」のときより1,600人以上増えてるんです。ですので皆さん島の魅力は届いてる、すごく可能性のあるところだというふうにとらえていただきたい。私「愛ランド里島構想」と言ってますけれども、普通アイランドはカタカナで書きますけれども、わざと「愛」って書いてます。島の中の人にも島の外にも愛してもらえる場所だと思いますので、愛ランド。愛するの愛をつけてます。りとうは離れた島と書きません。離れた島ってかくとどうしてもマイナス

思考になるんで、ふるさと、島の中の人にも島の外の人にも感じてもらえるようにということで、「里島」と書かせていただいています。前向きな思考がすごく大事だと思いますんで、前向きにとらえていただいたらと思います。今ありがたいことに北条も地元の方が動いてくれてイベントかなり成功しています。地元の人がやれるって思い出しています。三津も地元の方が動いて、新しい動きが出だした、やれるって感じてくれてます。中島もしまはくで大分元気になりました。こうやって地元が民間の方が動いてくれるとすごく動きやすくなりますので大変ありがたいと思います。よろしくをお願いします。

【男性】 熊田地区総代です。いろいろお話伺った中で、僕が実際関わっている事業の中で廃園の再生事業及び後継者、帰ってくる人間の中で、ちょっと廃園対策等で隣の小さい畑がやめたと、正直言って放っとくのか、つくるのか悩んだ中で、つくらしてもらった中で、国の対策なんでいろんな要望書をあげて計画書出してる中で、それをやるとなると最低1カ月から1カ月半、その間放っておくかという話になるんですよ。で、時期的にずれてしまうと作業も入りづらい。そこをもっと簡素化してほしい。たとえば1反、2反の畑ならば、単純に写真をとって上限何万円までは補助をしますよという形でしてほしい。それが要望と、もう1点、ある人が帰ってきたいという中で、再生関係は基本的に地目が畑に限られる。やめる園地はだいたい急傾斜でつくりにくくて、それを新しく入ってきた人間に再生してやれというのも酷じゃないかと。実際つくっている人間でもやめようかというのが現実なんで、昔以前つくっておった畑で平らな畑を放ったらかしとる、まあまあ道路も農道も整備されておる中で、そこに行きやすい場所ならば、今山林地目になっておるところにも対策として、本気になればそれを出せる状況をつくっていただけないかと、そうでないと結局これから先としてやっぱり園内道をつくりやすくするとか、園内整備するにも重機が入ってやれる形がとれるほうが、正直言って今後経営していく側としてはすごくメリットが高いんじゃないか、傾斜地をなんぼ手を入れても手を入れただけのメリットはないんで、実際自分らでつくってしんどい思いをしてというところがあるんで、やっぱり今後の新しく農家をやりたいとか、やるつもりで帰ってきてる人間に対してそういうことを助成がうまいこといけばなというところで、その辺をどう今考えられてるかお願いします。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課の矢野と申します。よろしくをお願いします。耕作放棄地のお話だと思うんですけども、おっしゃるように国の補助制度によって耕作放棄地の再生利用の緊急対策事業と

ということで、支援をさせていただいていると思うんですけども、それが十分でない、使い勝手が悪いということで、おっしゃっていただいていると思うんですけども、今年度から本市では、市単独で再生事業とか土づくりなどに上乘せ補助を行えるようにさせていただいております、そういった制度も用意をさせていただいるので、少しずつですけども利用いただきながら、農業担当課のほうにもご相談いただきながらやっていただければと考えております。それから山林地目等についてのお話でございましたけれども、農道の整備をもっとできないかというお話だと思うんですけども、農道につきましても、場所にもよりますし、当然利用戸数がどれぐらいあるのかということも場所を見させていただきながら適宜、整備できる条件を整えば整備をさせていただきたいと思いますので、また場所等を教えていただい。ではないんでしょうか。

【男性】 農道は通っているんです。農道のそばの5反なり6反の畑、昔あった畑が山林、山林いうても雑木が生えた程度。そこを開墾いうたら大げさですけど、重機を入れさせてもらって平らにしてもらうのを事業でどうにかならないかと問い合わせたところ、それに関しては全くない、自力でしてくださいということで、たぶん私らの地区では大方の農道はきれいに整備されているんですけど、ただ農道が入っている場所で荒れてる畑がまあまあ少し手を入れれば十分に仕事をしやすい畑になるというところで問い合わせたんですけど、2年後帰ってくる人がおるんで、いろいろ動かしてもらっているんですけど、そこをすれば次の段階に早く進めるんじゃないかというところで、その対策するのに何か事業が関わってくれないかというところです。

【都市ブランド戦略課長】 担当課にお問い合わせをすでにいただいているようですので、担当課がどう考えてるのか、また今後の見通しとか、また一度持ち帰りをさせていただいて、検討をさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

【市長】 今農業のことで大きく言うと3本柱かなと思ってます。まず、農家の皆さんがもっと懐が潤うようなことにできないか。例えば有望品種である「紅まどんな」とか「せとか」とか「カラマンダリン」とか。ライムとアボカドは今松山自治体別ではトップを誇っておるんですけども、転換品種としてどういう物を持ってくるか。とにかく農家の方の懐が潤うように、希望を持って農業ができるようにしていきたいというのが一つ。そして有害鳥獣対策。イノシシよく目にするようになりましてけど、イノシシは本当に危ないので、近寄らないほうがいいですという話です。イノシシの牙は、牙だけ取って紙スツと切ったらスパッとナイフのように切れ

るので、イノシシは興奮すると歯がむき出しになって向かってきますので本当に危ない、ものすごく時速も出るものなので、あまり自分の力で殺しにいかうとは思わないほうがいいと思います。それが1点、有害鳥獣対策。あと耕作放棄地対策です。国に出張させていただくことも多々あるんですけども、こちらとしても耕作放棄地対策もっと早く進めたいんですけど、国の枠組みの中でもどかしいというところがありますので、モデル的にできないかとかさまざまやり方を検討していきたいと思いますので、いったん持ち帰らせていただいて、お返事をさせていただきます。

【男性】 離島航路の助成、航路の支援についてなんですけど、今度フェリーを新造するというようなことをちょっと聞きまして、現在中島航路は島の人にとって唯一の交通手段で、通院や日用品の買い物など島の生活を支える生命線となっています。しかし中島地域は過疎化、高齢化の進行による利用者の減少に加えて、燃料費の高騰や修繕費等の運行コストの高騰などによりまして、中島汽船の経営は厳しい環境にあります。また加えて老朽化した船の船舶の建造に要する多額の経費が運賃値上げにつながるかと心配しております。聞いたところ長崎県では島民の負担軽減や交流人口の拡大のため、更新船舶を造船経費を県が10割補助するというような制度があるとお聞きしていますが、愛媛県及び松山市におかれましては、同様な支援について検討をお願いしたいんですけども、そういうところ何かあれば。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課長の松本と申します。よろしくお願ひします。まず松山市では、公共交通機関、船の便であるとか路面電車、郊外電車それからバスについて非常に重要視しております。公共交通機関をどんどん利用させていただくことを基本で進めております。で、今おっしゃったように船の便につきましては、もう皆さん御存じのとおり、船会社、非常に厳しい経営にあります。そういったことで、市あるいは県で新しい船にするといった場合には、船会社の方とまずは相談をさせていただいて、今後協議をさせていただきたいと思ひます。これまでバスとか路面電車については、バリアフリーの対策ということで、補助をしてきた経緯がありますので、そういったことで検討させていただけたらと思ひます。中島本島のバス走っておりますけれども、これについては現在バス車両ではなくて運行について、非常に厳しい経営にありますので、県と市で補助をさせていただいております。以上です。

【男性】 商工会です。何点かお聞きしたいところがあるんですけども、昨年もかんきつの振興ということで、力を入れるということだったんですけども、実際本当に力を入れてるんかと、というのも、今、中島のみか

ん所得、農業所得、漁業所得、ものすごく下がってます。そうすると商売人のところに全く回ってきません。なおかつ人口が平均で200ぐらい毎年下がってます。人口が今、4,200~300でしょ。ということは10年もすると2,000人で今の半分になるということなんですよ。そうすると、皆さん生活も大変ですし、当然商売人も今の状態であったらやっていけん、どんどん廃業が毎年10件以上出てます。それから農業も後継者ほとんどいないような状態です。各地区、皆さんここにいる方、高齢者に近い方がたくさんおります。若い人がもっとどんどん出てくるような方策をとってほしいと思っております。それと、もう一つ市長さんに伺いたいんですけども、今後中島をどういうふうにしたいのかと、今イベント一生懸命やっておりますけれども、大変いいことだと思いますけれども、イベントばかりすると、ここを観光の島にしたいのかどんなにか。そこら辺の方向付けとして、中島をどのほうに向けていくのかというのを聞きたいと思っております。よろしく願いいたします。

【都市ブランド戦略課長】 かんきつについてお答えをさせていただきます。支援を本気とするのかということでしたが、冒頭で、「次代につながる果樹生産地生産力向上支援事業」ということで、市長から話が出ましたが、年々補助制度も充実をさせていただいております。今回のこの事業も実は今年度からの新しい事業でして、施設の導入への支援だけではなく、例えば温州みかんあるいは伊予柑からライム、アボカドに改植する場合にも助成をしたりとか、補助対象の生産組織などの対象も加えたりとか、少しずつですけれども制度の拡充をさせていただいております。それからそれ以外にもかんきつの単一経営から、野菜などの作物などを生産していただく複合経営へも、農業指導センターでの指導もさせていただいておりますので、そうした結果、極早生タマネギとかそらまめとかスナックエンドウとかオクラなど、こちらでも栽培が始まっていると伺っておりますので、そうしたことで、少しずつですけれども対応させていただいていると思っておりますので、ぜひご理解を賜りたいと考えて思います。以上でございます。

【市長】 先ほど「愛ランド里島構想」について申し上げたところですけど、これは二つの柱だと思います。まず、私はこの島に住みたいと思う人は住み続けられる環境にしていきたいと思っています。ですので、これは暮らしやすい島を目指すということになりますけれども、例えば、フェリーのお医者さんに通うとき、すべての診療科がこちらに揃っているわけではないので、松山の病院に通うときのフェリーの運賃補助を出すようにいたしました。これはやはり住みたいと思う人は住み続けられる島にしていきたいという思いからです。また、島の明日を担う地域リーダーの育成をし

たり、アンテナショップを開設できないかという声がありましたので、そういったこととか、産物の販売促進や販路拡大をしていくことが一つの柱。二つ目にやはり交流があったほうがいいと思います。一つの表れがイベントということになりますけれども、先ほど言っていた定住の促進とか里島ツーリズムを活用した島に来てもらうこと。そして、中島のものっておいしいんよねって思ってもらえるような、里島ブランドと言いましょか、島のブランドの確立とか、廃校などの未利用施設を活用していくとか、こういうさまざまやっているところです。私が思うのは、行政が押し付けてはいけないと思うんです。ですので、しっかりとこの「愛ランド里島構想」をつくる時には、島の人のご意見を聞かせていただきなさいということで、平成23年の7月20日から1カ月かけて、有人の9島11地区で意見交換会をさせていただいた。そして本土の側でも島に関するアンケートを実施させていただいて、皆さんからの意見集約に努めて構想の中に反映をさせていただきました。これからも皆さんの声を大事にしながらやっていきたいと思いますので、そうじゃないんよ市長、こうしてほしいんよというのがあったら、言っていただきたいと思いますし、常に我々は皆様の声に耳を傾けていたいと思います。たとえば今日はちょっと言いにくかったなという方は、市長へのわがまちメールという制度もありますし、ホームページの中に、別にメールでなくても郵便でもかまんです、はがきでもかまんです。今こっちはなくてこうしてほしいんよというご意見いただいたら、支所もありますし皆さんの声をもとにやっていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

【女性】 私は運送業を営んでるんですけど、さっきの船の件に戻るんですけど、かんきつを輸送させてもらってるんですけど、最盛期には船が積み残って運びきることができません。で、今労働時間の問題とかありますけども、最終便の船に乗れたとしてもすごく過酷な状況で、今宅配便みたいにみかんが小口化になっていろんな種類があるので、いろんなところですごく運びます。昔と全然輸送形態も変わってるんですけど、それで10年後、私が生きていない20年後を思うと島は過疎化なので、船の便がすごく少なくなると思います。そのときに、中島汽船の母体の石崎汽船さん、私も広島にすごく何回も乗りました。フェリーも高速ジェットも。でもいつも空です。そのフェリーを三津から出て中島へ寄って広島へ行くことが可能であれば、これから先も中島が寂れることがないように思うんですよ。で、それがどうして中島に着かないのかということをやっと聞いたんですけど、港が浅いと言われました。で、その港の大浦港を三津浜港ぐらいの工事をして、将来に向けていい港をつくっていただきたいと私は

願います。そしたら、みかんもベストな状態で、市場へ持っていくことができます。自信があります。船がいくら運んでもあとはトラックが運ぶんです。で、私も庸車に入ったこともありますが、すごい高いんです。船は安いんです。船からあがったら水揚げしたみかんはトラックが運ぶんです。一発で運ぶ、傷まなく運ぶ、今は冷蔵機もつけてすごくみかんに対しての思いを込めて運搬させてもらってます。将来5年後、10年後、20年後に向けて、そういった工事をしていただけないでしょうか。

【都市政策課長】 まず船の運航については、今おっしゃったように中島汽船さんの親会社といいますか、石崎汽船さんされております。最初に言われた船の便数については、おっしゃられたようにやっぱり燃料の高騰もあったり、乗っておられる方が少ないということで、便数を増やすというのはお伺いしたところ、なかなか難しいということでありました。そのあとの港の整備につきましては、これはすぐにこの場でということはできませんので、関係する課に持ち帰って検討をさせていただきたいと思っております。あとご意見については、市のほうから船の運航会社さんにはこういうご意見がありましたと、いうことでお伝えをさせていただいたらと思っております。よろしく申し上げます。

【中学生】 中島中学校です。僕は卓球部に所属しているんですが、部活動の遠征や練習試合で船を利用するんですが、2千円ぐらいかかってかなりの費用がかかっています。なので学割を使えるようにしてほしいと思っているんですが、お願いします。

【市長】 はい、わかりました。これは制度をつくったんですが、ひょっとしたら小学校だけかもしれません。私が就任させていただいてから、たとえば北条の奥に比較的小規模な学校があるんですね。で、そういう小規模な小学校だと交流ができにくいということがあるんで、移動するためにタクシーを使うとか、公共交通機関を使うときに補助が出せる仕組みをつくったんですよ。ひょっとしたら小学校だけだったかもしれません。今、中学校もというお話を受けて確かにと思いますんで、ちょっと資料出てこないですね。いったん持ち帰らせていただこうと思いますが、確かに今、中島中学校の卓球部って歴史のある卓球部だと聞いております。確かになと思いましたので、これもまた持ち帰らせていただいて、1カ月を目途に返答させていただきたいと思っております。

【女性】 私は5年前にこの中島が大好きで、入ってきました。民宿を行っております。皆さんのいろんな諸問題あると思うんですが、私の切り口は、少し変わってるかなという点と、島根県の海士町に行かせていただきました。そのきっかけは、海士町の観光協会の課長さんが講演に来られた

のをきっかけに、行ってみたいということでまいりました。そしたら島ごとが営業マン、そのように感じました。そして島人そして観光協会の方等々が、住宅を車でどンドン案内して回ってる。そういう姿とかをお聞きするとか見せていただくとか、島ごとがあれだけの距離をあれだけの時間をかけて、そして真冬はフェリーがとまるというその海士町で、観光資源もほとんどないと思うんです。後鳥羽上皇さんの剣しかないのではなかろうかと思うんですけれども、それに比べてこの島は、私が5年前に好きで好きで入ってまいりました。そして5年たってもまだ深いなど。こんなに人間が生きるうえでないものはないなど私は未だもって感じてます。それぞれ、皆さんお仕事上いろんな問題があると思うんですけれども、基本中の基本は私が楽しまなければ民宿業はできないという観点にいたって、私は一生懸命楽しんで、お客様と一緒に遊ばせていただいて、そしてリピーターさんを増やすことに毎日日々送っております。そういう観点で、私はこの中島の素晴らしさを今後ますますアピールして行って、一人でも多くの方に来ていただきたいと思っております。個々それぞれ問題点はたくさんあると思うんですが、人が楽しんで住むうえで、ないものはないなどというふうに私自身の体験からはそのように思いますので、あと本当に素晴らしいよという言葉があちこちで、先ほどの方も言われてましたけど、何しに来たん、何のために来たん、何にもないでしょ、というところから始まるとどうなんかなというふうに思いますので、皆さんやっぱり胸を張って自信を持って、こんな素晴らしい中島で私5年も飽きもせんと一生懸命楽しんでますので、一緒にお客様をお呼びしたいなと思います。切り口が違っておりますして申しわけないですけど以上です。

【男性】 老人クラブの会長です。合併がちょうど8年目になると思います。合併の当事者の議長をしておったんですが、まあ8年もたちますと、先ほど船のフェリーの建造という問題もおきて、おそらく運賃の値上げということを心配して先ほど意見があったと思いますが、私は市長さんこう思っておるんです。行政と行政を結ぶ場合にはいろいろな障害があるけれど、合併すれば中島町も松山市です。そうしますと、陸地部には市道というのがありますね。中島には島内には市道になっておりますが、海には市道ないですね。国にも国道というのがあります。そうしますと、当然市道は市のほうで修繕、そのほかをして車で陸地部の方は運賃は同じで通勤しておる。なぜ中島地域だけが、仮に新造船をつくったときに運賃があがるようなことになればですね、大変なことだと思ふことと、放っておいても今人口が4600程度だと思ふです。そのようになれば、一船舶会社からみれば、人口が少なくなったんだから運賃をあげないかんとか、便数を

減らさないかとかいう問題がおきてくると思います。それは当然だと思いますけれど、我々住民としては、合併した当時の気持ちは、応分の負担はしていかなければならんけれど、それ以上の問題で船をつくるとか、そのほかの修繕をするとか、そういう基礎的な資本に投下する金を、住民に負担するべきでないと思っております。これは松山市のほうで負担をしていただくのがベターやなかろうかと思っておりますが、いかがなものでしょうか。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。先ほども言いましたように、中島汽船さん非常に厳しい経営状況の中で、効率的な運営をしていただいているということで、なんとか今頑張ってもらっています。で、市としても公共交通機関ですから非常に重要視をしております。今のところなんとか中島汽船さん頑張ってもらって、やっております。今後、さらに厳しい状況になるということがあれば、県と市でそれに対してどういった補助になるかということで検討させていただくということでご理解いただけたらと思います。

【男性】 先ほど中学生の方から、運動場の利用について質問あったと思うんですが、それに関連してですが、この本島には廃校になった小学校が3校あります。この施設等についてどのようにされるおつもりですか。そこが1点。それに関連してですが、私ども大浦地区の公民館、これが築後43年になります。老朽化が進んでおりますが、もし旧中島東小学校の南側の校舎、まだあれは十分使えるのかな。今年は支所が耐震工事でその間利用されるということ聞いておりますけど、これはその後、拝借できるかどうか。地区公民館としての代替ができるかどうか。その辺のところちょっとお聞きしたらと思ひまして。

【生涯学習政策課長】 教育委員会です。学校につきましては、中島小学校ができましたときにもお話ししたんですけども、耐震性の問題が一番と考えております。特に西側の校舎につきましては、耐震性が先般の調査においては、ないということですので、東側のほうは先ほどお話がありました支所として支所の耐震が終わるまで活用するという形になりましたので、その後については、もし貸出しするにあたりましては、安全面、耐震性をどう確保するのか、行政においての耐震はまず現在使っております公民館とか、そういう公共施設を最優先に耐震性をとらえておりますので、そういう期間もいろうかと思ひますので、もし地元の方々でご活用、今回の里島構想もありますけど、そういった中でも活用できればと思いますか、なかなかそういうところまでいっていない現状でございますので、今の段階ではちょっとお貸しするというお約束はできないのでご理解いただけ

たらと思います。

【生涯学習政策課長】 大浦の公民館につきましては、市内に300を超えるほどの分館もございます。その中に昭和30年代、また大浦のように40年代に建てられた分館もございます。現状を申し上げます。地元からの要望を受けまして、耐震化でありますとか建替えの緊急性のあるところから計画的に着手しているところです。ただ分館の建替えのご要望につきましては、今後どのような手続きが必要となるのかということもありますので、具体的などのような形でやるのかということについては教育委員会学習施設課で、追ってご連絡させますのでそのあたりで具体的な手法等について考えていただければと思いますが、正直、数でいきますと、40年代以前に建てられた分館が市内には65あります。現時点、分館の建替えのご相談いただいておりますのが20数件と聞いておりますので、そのあたりも踏まえていただければと思います。

【市長】 このあたりで締めとさせていただきたいと思いますが、今日また中島に来させていただいてタウンミーティングをさせていただいて、新たな声を聞かせていただいたと思っています。やはりこのように現地現場に出かけて皆さんに声を聞かせていただくと、やっぱり気づきがありますので、これからも皆さんどうぞ中島には支所もあります。どうぞ敷居を高くしないで、市の方に相談していただいたら説明もできますし、何かええ方法なかるかって言っていたら、この方法はできないんですけどこういう方法ならあるんですよって行政知識っていうか行政情報をお届けすることもできますので、どうぞ市役所と上手に付き合ってくださいと思います。車に例えると行政の車と地元の方の車は車の両輪だと思いません。一方の車、例えば民間の方の車が一生懸命タイヤ回しとったとしても、行政の車が例えば全然回ってなかったら、その車は同じところをぐるぐる回るだけ。例えば行政側の車が一生懸命回してるんだけど、民間のほうあまり動かせないと、こういう風に同じところを回るだけでも行政のタイヤも回る民間の車も回る地元の車も回ったらその車はよく進んでいくと思います。ですので行政と地元の方々民間の方々が連携がとれることがすごく大事だと思いますので、市役所は私考えてるのは市民の皆さんの役に立つ所で市役所じゃなきゃいけないと思っていますので、どうぞ敷居を高くなさらないでいろいろと相談していただいたらと思います。必ず今日いただいたお声に対しては、1カ月を目途に市の方針、市の意見をお返しさせていただきますのでよろしくお願いします。あと総括的になるんですが、今日、中学生・高校生にも出てきてもらってましたけれども、やっぱり前向きに考えることがすごく大事じゃないかなと思います。やっぱり人

間辛くなるとうつ向いてしまうものです。どうせっていう言葉が口をついてしまうものだと思うんですけども、申し上げた「愛ランド里島構想」は、たまたま前の仕事で中島に来させていただいて泊ることも多々ありました。中島で夕陽が島に沈んでいく、波音を聞く、夜松山では中々見ることのできない満天の星が見られる。中島に来て自然を体験すれば、懐かしい風景を見れば自分の故郷じゃないけどもええところやなあ、故郷を感じるようなところじゃないかなと思って「愛ランド里島構想」を職員たちと一緒に、島の皆さんたちと一緒につくらせていただきました。凄く素敵なおところだと思います。中島地域のことを皆さんが褒めないで誰が褒めてくれるんですか。今治の人が中島地域のことを褒めてくれますか。松山本土の人が中島のことあんまり知らないのに、中島のこと褒めてくれますか。やっぱり自分の故郷やけん自分らが住んどる自分らが一番褒めないかんのやないでしょうか。PRせないかんのやないんでしょうか。中島の良さは皆さんが一番よく知っていると思います。だから中島の人たちには今辛いこといっぱいあると思いますけども、前向きに考えて動いていただくといろんなアイデアも浮かんでくると思います。徳島県の上勝町、色づいた葉っぱを料理のつまみに料理と添えることによって収入を増やしていったということもありましたけど、前向きな発想だと新たなものは生まれてくると思います。でも後ろ向きな発想、どうせだめじゃ言よったらアイデアは生まれてこないと思います。我々も島の方々にまるっきり任せるんじゃないで共にかんを汗をかいていきたいと思っていますので、どうぞ皆様方これからもさまざまお力添えをいただけたらと思います。今日は長時間にわたりましてありがとうございました。

— 了 —